

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第17週)

(令和8年4月20日～令和8年4月26日)

令和8年4月30日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		14週	15週	16週	17週	合計		
定点報告	インフルエンザ	1.33 4	0.67 2	1.33 4	- 0	- 580	- 2,558	- 1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0.33 1	1.33 4	1.33 4	2.67 8	- 117	- 1,139	- 3,622
	RSウイルス感染症	0.50 1	- 0	1.00 2	1.00 2	- 25	- 156	- 309
	咽頭結膜熱	- 0	- 0	- 0	0.50 1	- 3	- 78	- 337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50 3	2.50 5	2.50 5	1.50 3	- 66	- 243	- 657
	感染性胃腸炎	1.50 3	- 0	1.00 2	1.00 2	- 104	- 430	- 610
	水痘	- 0	- 0	- 0	- 0	- 4	- 10	- 6
	手足口病	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 15	- 952
	伝染性紅斑	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 141	- 0
	突発性発しん	0.50 1	0.50 1	0.50 1	- 0	- 12	- 59	- 182
	ヘルパンギーナ	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 4	- 19
	流行性耳下腺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 1	- 10	- 13
	急性出血性結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	流行性角結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 2	- 9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	- 0	- 0	- 0	- 0	- 2	- 16	- 1
	クラミジア肺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	細菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	マイコプラズマ肺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 10	- 42	- 16
	無菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	インフルエンザ入院	- 0	- 0	- 0	- 0	- 7	- 39	- 19
新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00 1	- 0	1.00 1	- 0	- 21	- 56	- 120	
急性呼吸器感染症(ARI)	29.33 88	39.33 118	54.00 162	53.33 160	- 3,275	- 8849	- -	
全数報告	百日咳	2	0	0	0	7	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 本県における第17週の定点当たり報告数は0.83と、11週連続で減少しました。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 直近2年間の同時期より低い水準にあるものの、他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
結核	本県で3例届出がありました。 昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業所や高齢施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施し、早期発見に努めましょう。
侵襲性インフルエンザ菌感染症	本県で1例報告がありました。 侵襲性インフルエンザ菌感染症はインフルエンザ菌が血液や髄液に侵入することで髄膜炎や敗血症を生じる感染症です。インフルエンザ菌は毎年冬に流行するインフルエンザの原因ウイルスとは異なりますが、咳やくしゃみによる飛沫感染から発症する場合があります。予防はHib(インフルエンザ菌b型)ワクチンの予防接種が有効です。
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	本県で1例報告がありました。 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は、メロペネム等のカルバペネム系及び広域β-ラクタム系の抗菌剤に対し耐性を示す腸内細菌による感染症です。健康な人への感染はほとんどなく、主に院内で感染で確認され、肺炎や尿路感染症、敗血症等、重篤な症状を起こします。また、使用できる抗菌剤が制限されてしまうため、適正な抗菌剤の使用を心がけるなど耐性菌を増やさない取り組みが重要です。院内感染が発生した場合には感染拡大防止策の徹底をお願いします。
麻しん	県内での発生は確認されていませんが、国内の感染者数が増加しています。 麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。手指消毒やマスクのみでは予防することができません。最も有効な予防法は、ワクチンの接種です。海外からの輸入事例がほとんどであることから、特に海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染に十分注意しましょう。

大型連休を利用した帰省や旅行等で人の移動や接触の機会が増えることが予想されます。体調管理に留意することや、咳エチケット、手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。また、大型連休中は受診可能な医療機関が少なくなります。福島県では、夜間や休日に急な病気や怪我でどうすれば良いか迷った時に、対処方法や受診可能な医療機関について相談できる相談電話窓口があります。
「#7119」福島県救急電話相談 「#8000」福島県子ども救急電話相談 にご相談ください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第17号